さいたま 見沼

よみさんぽ

2018
Vol. 26

シリーズ　身近な生き物

見沼たんぼの生き物たち

写真家　野口勝宏

シリーズ
身近な生き物

見沼たんぼの生き物たち

語り　渡邉　博子さん　桑本　潔さん
（NPO 法人見沼ファーム 21）

シリーズ「身近な生き物」，２回目となる今号は，水の中の生き物たちをご紹介します．見沼たんぼの水田保全活動を行う NPO 法人見沼ファーム 21（以下，見沼ファーム 21）で，田んぼの「生きもの調べ」を担当されている渡邉博子さん，アドバイザーの桑本潔さんにお話を伺いました．

「生きもの調べ」の始まり

見沼ファーム 21 で「生きもの調べ」を始めたのは，2009（平成 21）年．当時，COP10[注1）] で水田の生き物を調べていこうという声が上がっていることを知った渡邉さん．見沼たんぼにどんな生き物がいるのか知りたくなって，見沼ファーム 21 で提案したことがきっかけでした．せっかくやるなら，大人だけでなく，次世代を担う子どもたちといっしょに……と，見沼ファーム 21 が行う「見沼たんぼ体験水田米づくり」（以下，体験水田米づくり）に合わせて，参加者と「生きもの調べ」を始めたのです．

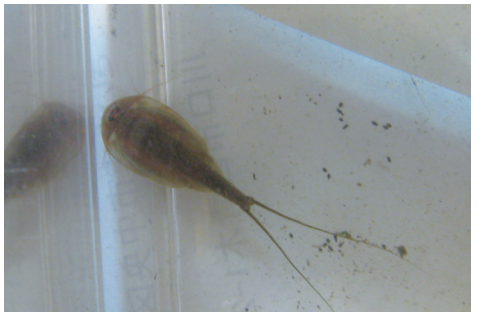
そこで，もともと体験水田米づくりの参加者で，環境調査関連の業務にも従事されていた桑本さんにもアドバイザーとして協力してもらいました．

農薬は使わない米づくりと生き物の変化

「生きもの調べ」を行っているのは，見沼ファーム 21 が保全活動を行っている「加田屋たんぼ」「新加田屋たんぼ」「ドロンコたんぼ」の３か所です．ここでは農薬を使わずに米づくりを行っています．農薬を使わずに米を作るためには，稲の苗を植える間隔を広くし，田んぼに生える草は手作業で取るなど手間と暇をかけなくてはなりません．その甲斐あって，農薬を使わなくなって４年目くらいから，田んぼに棲む生き物に変化が見られるようになりました．そして，多種多様な生き物たちが共存し，バランスを保ちながら害虫の大発生を抑え，見沼の原風景を守ってくれているのです．

注１）「COP（Conference of the Parties）」とは，国際条約を結んだ国が集まる会議（締約国会議）．COP10 は，多様な生き物や生息環境を守り，その恵みを将来にわたって利用するために結ばれた生物多様性条約に関する 10 回目の締約国会議．

ホウネンエビ


アメリカカブトエビ

見沼たんぼで生きる「生き物」たち

特徴的な生き物に，「ホウネンエビ」と「アメリカカブトエビ」がいます．「ホウネンエビ」は，ゆっくり背泳ぎをしながら餌を食べる半透明のエビの仲間です．緑色の殻に朱色のしっぽは，目を惹きます．「アメリカカブトエビ」は足で土をかき混ぜ，ミジンコや有機物の餌を食べます．それにより田んぼの草の根を浮きあがらせ，また，水が濁ることで，除草効果があります．どちらも，その姿が見られるのはごくわずかな期間です．田んぼに水が入ると，３日ほどで孵化し，産卵し，その命を終える……この間わずか数週間なのです．卵は乾燥に強く，翌年田んぼに水が入るまで，土の中で命を育みます．この２種は，田んぼの自然が保たれているかの指標となるものといえます．

カエルやカエルの子である「オタマジャクシ」も田んぼにはたくさんいます．よく見られるのは，黄緑色が鮮やかな「ニホンアマガエル」．小さな体と鮮やかな色から子どもたち

トウキョウダルマガエル

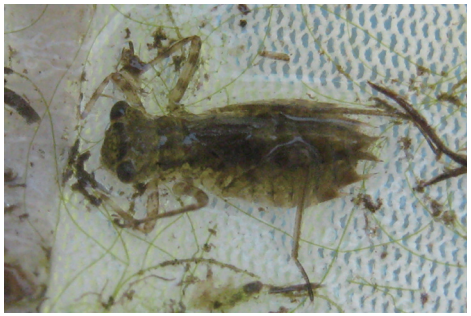
にも人気です．茶色い背中に白いお腹の「ヌマガエル」も多く見ることができます．「トウキョウダルマガエル」は稲刈りの時に姿を見せます．牛のような大きな鳴き声が知られる外来種「ウシガエル」は，その姿こそあまり見ることはありませんが，いつの間にか，田んぼにシート状に広がる大量の卵を産み付けます．食欲が旺盛で，田んぼの生き物を食べてしまったり，繁殖力も強いことから，生態系への影響が懸念される種です．これらカエルがたくさん生きている場所は，豊かで多様な水辺環境があることを示しています．

トンボの子であるヤゴは，ご存知の通り，水の中の生き物です．中でも，赤とんぼと呼ばれ親しまれている「アキアカネ」や「ナツアカネ」，羽の先が茶色なのが特徴の「ノシメトンボ」は多く見かけます．これら赤とんぼの仲間は，稲刈りが行われる秋に産卵し，寒い冬の間は土の中で卵を育み，田んぼに水が入ると孵化し，ヤゴになります．ヤゴは，田んぼに水が入っている約２か月をかけて成長し，中干し[注2)]を前に稲の茎に上って羽化し，生体は避暑のために近くの山などに移動し，稲刈りの頃にまた産卵のため田んぼに戻ってくるのです．そのほかに「シオカラトンボ」もよく見かけます．

魚類では，「ドジョウ」や「タロモコ」，「フナ」や「コイ」の稚魚が多く見られます．近年の水路の整備で，魚たちは田んぼと川の行き来がしづらくなってしまいました．今では，水路と田んぼの位置によって，見られる種類が変わってきているようです．

埼玉県で絶滅を危惧される生き物たち

見沼たんぼには，埼玉県で絶滅を危惧される種も多くいます．背中から見る



アキアカネヤゴ

アキアカネ

注２）７月中旬，１週間ほど田んぼを乾かし，イネの根の呼吸を助け，分蘖（ぶんけつ）を止め，出穂を促すこと

と目が横に飛び出して見えるのが特徴の「スジエビ」や，体長 20cm ほどで，はさみに藻くずのような毛がある「モクズガニ」も絶滅危惧種です．もともとカニやエビなどの甲殻類は，農薬の影響を受けやすく，前述の「ホウネンエビ」や「アメリカカブトエビ」など甲殻類の姿が見られるようになったのは，田んぼに農薬の影響が少なくなった証でもあります．

シオカラトンボ

他にも，乾燥に強く，土に湿り気があれば越冬することができる「マルタニシ」，マルタニシより大きな「オオタニシ」，鮮やかな緑色に茶色の斑点模様が特徴の「トウキョウダルマガエル」，「ミナミメダカ」なども絶滅危惧種となっています．中でも，「ミナミメダカ」は，水路が整備されすぎたことが影響してか，加田屋たんぼの周辺ではほとんど見られなくなってしまいました．

水で生きる生き物にとって，田んぼはとても良い環境です．水は川のように流れもなく一定の水位があり，位置によって温度の変化もあり，たくさんの泥は身を隠し，卵や幼虫を育てる場所になっています．しかし，米づくりでは，田んぼから水を抜く中干しを行うため，この時期に多くの生き物が死んでしまいます．人間には，できるだけ田んぼの生き物たちが生き長らえるよう，その中干しを少し遅くすることくらいしか，してあげられることはありません．

見沼たんぼは埼玉の原風景

見沼たんぼは，「埼玉の原風景」と言われています．さいたま市と川口市をまたぎ，面積 1,260ha（東京ディズニーランドの約 12 倍）の，広くて大きな環境緑地空間です．さいたま市の「総合振興計画」「緑の基本計画」で，見沼たんぼは街づくりの重要な要素として位置づけられ，「見沼基本計画」では＜農・自然・歴史とふれあう憩いのふるさと“みぬま”＞と記されています．2014（平成 26）年には，日本ユネスコ協会連盟によって，100 年後の子どもたちに残す貴重な「未来遺産」として登録されました．

以前はその多くが田んぼでしたが，農家の後継者不足や高齢化などにより，米を作る農家が減り，水田は少なくなってしまいました．水田が少なくなれば，景観が変わってしまうことはもちろん，多くの生き物の棲み家が減ってしまう

ミナミメダカ

ことでもあります．見沼たんぼを保全するためには，まずは「水田」であることを守っていく必要があります．さらに，見沼たんぼで生きている生き物たちを守るためには，それらが生きやすい環境を整えていくことも必要です．田んぼの維持・保全が第一優先ではありますが，米づくりの方法によっても，その環境が変わること，そしてそこでの生態系を守ることができると知っておくことは重要です．

実体験を通して，生き物たちに触れることは，たいへん貴重なことです．「体験水田米づくり」によって，田んぼが埼玉にとって，私たちにとって大切な環境であることに目を向けてくれる人が増えると嬉しいです．

取材を終えて

私自身，数年前に子どもといっしょに体験水田米づくり，「生きもの調べ」に参加しました．初めて見沼たんぼの生き物に触れ，田んぼにいる生き物の種類の多さに驚いたことが思い出されます．今回，お話を伺って，見沼たんぼの自然環境の豊かさを改めて感じました．子どもたちにこの環境を残していきたい，残すために見沼たんぼの自然のことを多くの人に知ってもらいたいと思っています．未来の子どもたちに見沼たんぼの自然環境を残すことが，今の大人たちの役割だということを感じさせられました．皆さんも，ぜひ見沼たんぼの自然に触れてみてください．

参考文献　NPO 法人見沼ファーム 21：見沼たんぼの生きもの調べ　改訂版，2017

水の中の生き物の本

並木せつ子

最近は爬虫類をペットとして飼う人もふえてきましたが，あまり人になつくというイメージはありません．ところが，心理学者の中村陽吉（ひよし）さんの家の「カメちゃん」は，水槽から手をのばしてご挨拶したり，飼い主の頬に鼻をおしつけて「チュッ」としたり，呼べば喜んで駆けよってくるカメです．１年目には冬眠しましたが，２年目からは冬眠もせず，およそ爬虫類らしからぬカメになってしまいました．

カメちゃんとの出会いは，たまたま熱帯魚店にいたカメを，小学生だった娘さんがほしがったので飼ったという偶然から始まりました．それが，寒くなると陽吉さんの布団に自分から入ってきて，体をよせ暖をとるまでになったのです．『呼べばくる亀』（誠信書房 1991 年刊）は，まるで猫や犬のように人によりそい，家族として 20 年余を生きたカメの本です．

次はイモリの本です．著者の高巣忠好さんは小学生．生きもの好きの一家に育ちました．飼っている鳥や魚，ウサギ，虫なども皆家族の一員です．そこに加わったのがイモリの「テプ」．世話をしているうちに気づいたのは，水槽の中のテプのいる場所でした．水槽の上のほうにいる日，水の中に潜っている日，中間にいる日があって，その場所はどうも翌日の天気と関係しているみたいなのです．

忠好さんは夏休みに，テプのいる場所と天気の関係を毎日観察してグラフにしてみました．その結果，テプが上にいる日は雨，下にいる日は晴れ，中間の日は曇りということがわかりました．住んでいる狭い地域だけでいうと，テレビよりイモリの天気予報のほうがあたっていたそうです．こんなことを発見できたのも，飼った生き物は長生きさせたいと，たいせつに世話をしたからでしょう．観察記録をまとめた本が『イモリの天気予報』（童心社 1985 年）です．

あの街この街 俊一郎が行く・20

犬との出会い方

とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ．生まれも育ちも，東京の下町．
エンジュの新築の他，保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）を複数行う．（写真　新　良太）

みかん箱から仔犬

ペットが飼える．その念願が叶った残暑の頃，なぜだか心は晴れませんでした．もともと，何かを選ぶのは心が苦しくなる気分がして得意ではありません．命を選ぶとなるとなおさら．だから，まだペットを飼うことが叶わなかった頃，理想としていた犬は，みかん箱に入った仔犬でした．

どんな犬の種類を希望しているのか質問してくる友人たちに，マンションの他の住人への言い訳にもなるからという意味も込めて，「みかん箱に入った仔犬を玄関にそっと置いていってくれれば，どんな犬でも大事にする」と本気のような冗談のような話をしていたのです．

犬の迎え方さまざま

「仔犬っていうのは，河原で拾ってくるもんだろ？」「近所で見かけた野良犬が納屋で産んだ仔犬の飼い主を探したりしたよ」「新聞の広告欄で仔犬の情報を見て買いに行った」等々……父親をはじめ，私よりもふたまわりくらい年上の人の中には，本当か嘘かわからないような話を聞かせてくれた人もいました．

今の時代，インターネットを使えばさまざまな情報が得られるのは，ペット選びも同じです．ペットショップでは，日本中のチェーン店で販売中の犬の情報を見られる会社もあります．また，犬の生産者の仔犬情報，他方，里親募集中の保護された犬たちを紹介するホームページもありました．

右脳のささやき

そもそも，夫婦の中で思い描いていた飼い犬の種類がかみ合っていなかったのです．子ども時代，実家で小型のダックスフントを飼っていた私は，狭いマンション住まいであることを鑑みて，小型犬をイメージしていました．しかし，埼玉の庭付きの家で生まれ育ったカミさんの子ども時代には大型犬が居て，小型犬は物足りない印象があったのです．

そんな中で頼れるのはペットショップでした．お店に入ると，それぞれのケースの中にはさまざまな種類の犬が居ます．小型犬から大型犬，たまたま見かけた中から気になった犬を言えば，抱かせてもらうこともできる．抱かせてもらうと，右脳は「もう，この犬にしようよ」とささやきますが，「理性的になれ！」と左脳が抑制．そんな脳内でのやり取りを繰り返し，ペットショップを出る頃には，頭が痺れるような感覚になってしまいました．

どんな犬がいいの？

飼いたい犬を決めかねている夫婦にとって，ペットショップは犬との暮らしをイメージするこの上ない環境でした．ただ，流されやすい自分たちにとって，冷静になれない危険な場所とも感じられていたのです．迎えるからには，どのようなことがあってもその生涯を面倒見ようと思っているけれど，出会いが衝動的になると思ってしまいました．ましてや，相手は仔犬です．やはり，飼いたい犬のイメージは大事だと思いました．

決め手を欠き，犬種ありきで話をするのはやめようと，理想のイメージを夫婦で話し合いました．その結果，投げやりに「鳴かない・吠えない・汚れない犬」とカミさんは冗談を言います．それなら，こんなのしかいないよと，細っこい犬のカードを差し出しました．私が全く意中にしていなかったその犬の写真を見て，カミさんは，「これがいい」と言ってきたのです．

犬の形をしたものは何でも撫でていた頃の写真

あなたの街のやどかりさん　第23回

地域の「憩いの場」を目指して

こだわりメニューが揃う喫茶ルポーズ

大宮区天沼町で創業20年となる喫茶ルポーズ．お昼になるとサラリーマンや近隣の方，多くのお客さんでにぎわいます．今回は，ルポーズのこだわりのメニューやお店づくりについてご紹介します．

私たちが大切にしていることは「ルポーズ」という店名にあります．店名の由来であるフランス語の「repos」＝「休息」という言葉の通り，地域に住むお客さんや，店づくりに携わってくれる人たち，そして働く従業員にとっても「憩いの場」でありたいという想いから店づくりを行っています．

「作り手が美味しいと思える物を提供する」

ルポーズでは，１人１人の従業員が来て下さったお客様に「美味しい物を食べてもらいたい」「ゆっくりと寛いでもらいたい」という想いで営業をしています．そのため，提供するフードメニューにはレトルト食品を使わず，納得した味になるよう手作りで仕込みを行い，コーヒーも注文を受けてから豆を挽き，１杯ずつハンドドリップした淹れたてを提供することを心掛けています．

作り手が美味しいと断言できるメニューづくり，営業する私たちが居心地の良いと思える空間づくりを大切に，「障害のある人たちが働く店だから……」という先入観を良い意味で壊せるようなお店を目指して，日々努力をしています．

「どんな人でも憩える場所へ」

ルポーズでは，人と人のつながりを実感することが多いです．ひとり暮らしのおじいさんが店員との会話を楽しんでいたり，店内で偶然知り合いと出会い，久しぶりの再会に話が弾んでいたり，障害の有無に関係なく，店員としてお客様と自然に会話をしていたり……日々人と人がつながっていく場面を目にします．立場や年齢を越え，ルポーズのお客様という共通点で，人と人がつながっていけるようなお店になってもらいたいという想いで，私たちは毎日バタバタと働いています．ぜひ，天沼町の近くを通る際には，お気軽にご来店ください．自慢のメニューを携え，お待ちしております．

喫茶ルポーズ
〒330-0834　さいたま市大宮区天沼町1-136-2
Tel　048-657-0202　Fax　048-657-0202

【ブレンドコーヒー ¥200】
注文を受けた後に豆を挽き，淹れたてのコーヒーを提供します．

【ビーフカレー ¥580】
牛肉がたっぷり入った当店自慢のカレー
リピーター多数！

【焼き菓子】
店内で手作りする焼き菓子．手土産などにも最適ですよ！

【雑貨販売】
月替わりで雑貨・絵画の展示販売を行っています．

人と人をつなぐ結びに

大高　文子さん

（一般社団法人ワーカーズ・コレクティブ むすび「むすび食堂」）

いちばん左が大高さん

埼玉県障害者交流センター入口を入ると，すぐ右手におにぎりのロゴマークが印象的なレストラン「むすび食堂」があります．オープンから３年目を迎え，今ではセンター内の食事処として，障害をもつ人やその介助者，センター職員などで賑わう場所となっています．

開店から喫茶ルポーズのパウンドケーキがデザートとして並びます．「人と人をつなぐ」憩いの場を目指すむすび食堂には，ルポーズのお店づくりに通ずる想いを感じます．今回は「健康な身体は日々の食事が大切です」と食への熱い想いを語る，代表の大高文子さんにお話を伺いました．

地域の中に「人と人をむすぶ」場所をつくりたい

大高さんは約 30 年前に「生活クラブ生協」の活動を知り，健康で安心して暮らせる社会の実現という目的に共感し，活動に携わってきました．その中で，社会的・経済的自立を目指す人たちが，地域の中に開かれた労働の場を協同でつくり出すことを目標とし，メンバー１人１人が共同経営者として主体的に事業に携われる新しい働き方「ワーカーズ・コレクティブ」と出会います．地域に必要とされるモノやサービスを創っていく過程で生まれたのが一般社団法人ワーカーズ・コレクティブ「むすび」でした．

「食への想いは誰にも負けない」

むすび食堂の経営の傍ら，障害者福祉施設に勤務している大高さん．日頃から障害者の「食と健康」について課題を感じていました．

2016（平成 28）年４月，障害者交流センターで食事を提供する非営利団体を募集しているという話を聞き，わずか３か月で一般社団法人ワーカーズ･コレクティブ「むすび」が立ち上がりました．集まったメンバーは，「食への想いやこだわり」をもっていたこともあり，「美味しく･健康になれる食事づくり」をモットーに「むすび食堂」をオープンしました．

化学調味料を使わず，可能な限り自然な食材を使用した料理を提供することを目標とし，生活クラブ生協のこだわりのある食材を仕入れたり，コンソメスープは鶏ガラからダシを取る徹底ぶり．「健康は日々の食事からできている」という大高さんの強い想いが伝わってきます．一方で，「味が薄い，値段が高いから安くして欲しいなどの要望も多く，開店当初は頭を抱える日々が続きましたが，今では身体に優しい食事を目当てに来店するお客様も増えてきて嬉しい」と大高さん．

「人と人をつなぐ場所に……」

「むすび食堂」には，障害者交流センターの利用者が多く訪れる一方で，近隣住民の人たちの利用はとても少ないそうです．

「『特別な施設』という印象が強く，気軽に利用できる場所として認知されていないことが課題です．むすび食堂を通じて，誰にでも気軽に利用でき，地域に開かれた場所であることを知ってもらいたい」と，大高さんは語ります．

むすび食堂では，足のマッサージの仕方を学びながらお茶を飲む「足もみカフェ」などのイベントも開催し，普段この場所を利用しない人たちが立ち寄れるきっかけづくりにも取り組み始めています．

「むすび食堂」の「むすび」という言葉には，障害の有無にかかわらず，この場所を利用する人たちや働く人たち，さまざまな人と人を「結ぶ」という想いが込められているそうです．「地域に根ざした憩いの場所」「人と人がつながる場所」でありたいと，むすび食堂のスタッフ全員がそのような想いを胸に日々取り組んでいます．食へのこだわりと美味しさには自信あり．ぜひ，気軽に立ち寄ってみてはいかがでしょうか．　　（記　関口　和司）

一般社団法人ワーカーズ・コレクティブ　むすび
〒 330-8522
さいたま市浦和区大原 3-10-1
埼玉県障害者交流センター内
TEL 048-831-6600

ワーカーズ・コレクティブ　むすび食堂

お弁当承ります

交流センター会議室ご利用時のご昼食をご用意いたします.
地域の集会，お友だちとランチ会，ご家族のイベントなどに
３日前までにご予約ください．お弁当のお値段はご相談ください.

お弁当　￥600～

営業時間　11：00～15：00（平日）
11：00～16：00（土日・祝）
定休日　月・第３火曜
（祝日の月曜日は営業，翌火曜日が休み）

さいたま市浦和区大原 3-10-1 埼玉県障害者交流センター内
一般社団法人ワーカーズ・コレクティブ　むすび
TEL&FAX　048-831-6600

2017 年 7 月に急逝された埼玉県浦和市出身の漫画家，おかべりかさんの作品を集めた企画展が開催されます.

＊「おかべりか展～コドモだってイロイロあります～」
平成 30 年 7 月 7 日（土）～8 月 26 日（日）
月曜日休館／入館料無料
さいたま市立漫画会館 企画展示室（1 階）
（埼玉県さいたま市北区盆栽町 150 番地）

＊「発掘！おかべりか展」
平成 30 年 10 月 12 日（金）～10 月 16 日（火）
14：00～21：00（最終日 19:00 まで）
ロケッティーダ（東京都豊島区高田３丁目９−８）

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

社会福祉法人 鴻沼福祉会（こうぬまふくしかい）

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください

とうふ屋 一豆（いちず）

TEL　048-854-8000
FAX　048-854-3538
さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。
宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を１００%使用し、オリジナル惣菜も人気です。
大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL　048-854-6910
FAX　048-854-6942
さいたま市中央区円阿弥1-3-15　鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。（一部商品を除く）
この道３０年の職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。

弁当屋 いちず

TEL・FAX　048-684-1257　さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。
野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをとおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！　問い合わせ先：048−854−6890（担当オガワ）

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局　埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15　鴻沼福祉会館内　TEL：048-854-6890　FAX：048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所（中央区）　●あざみ共同作業所（見沼区）　●そめや共同作業所（見沼区）　●きりしき共同作業所（中央区）
●さいたま障害者労働センター（桶川市）
《くらす》●第1たかさご荘　●第2たかさご荘　●第3たかさご荘　●かえでホーム　●かりんホーム　●よつばハイツ
●なつめホーム（以上、中央区）　●のぞみホーム（見沼区）
《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢　●地域活動支援センター来夢（以上、中央区）
●見沼区障害者生活支援センター来人（見沼区）

さいたま見沼よみさんぽ

作者紹介

写真家　野口勝宏さん

のぐちかつひろ／写真家．東日本大震災を機に「福島の花の美しさで世界の人々を笑顔にしたい」と「福島の花 Flowers of Fukushima」シリーズを制作．

全国各地での写真展開催のほか，病院や福祉施設などでの展示も手掛ける．また，2016年5月より国内就航を開始したANAの復興支援「東北FLOWER JET」の機体を福島や東北の花々でデザイン．全国に明るさを届けたいと活動を続けている．

野口勝宏オフィシャルサイト
http://noguchi.photo

表紙：燧ケ岳（ひうちがたけ）とニッコウキスゲ

尾瀬に咲くニッコウキスゲは7月中頃～末までが見頃になります．

ニッコウキスゲの花言葉は朝に咲き夕方しぼむ一日花であることから「日々あらたに」．

極寒の雪の重さにも耐え毎年変わらずに咲く花々を見ると忘れかけていた勇気や希望を感じます．

「よみさんぽ」26号が刊行される頃はニッコウキスゲも終盤を迎えていることと思いますが．

高原に咲く清らかなニッコウキスゲから「日々あらたに」の言葉をイメージしていただけたなら幸いです．

さいたま見沼よみさんぽ　第26号
発行　2018年8月
編集　「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会
〒337-0026　さいたま市見沼区染谷1177-4
Tel　048-680-1891
Fax　048-680-1894
E-Mail　johokan@yadokarinosato.org
http://www.yadokarinosato.org/
発　行　公益社団法人やどかりの里
　　理事長　土橋敏孝
印刷所　やどかり印刷

今年1年，よみさんぽでは「身近な生き物」に関するお話をお届けします．今号は「水の中の生き物」に注目しました．

公益社団法人やどかりの里は，この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を続けています．私たちは長年この地域で活動し，地域の皆さんに支えていただいてきました．

そして，この地域の人々が織りなしてきた歴史･文化，守り育ててきた自然，地域に根づいた事業等々をもっと知りたいと思うようになりました．合わせて，やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました．

またこの度，広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました．

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同